

看護部だより

ひまわり



2016年11月
発行責任者：小牧加代子

VoL. 45

久々湊看護部長就任の挨拶

皆さま始めまして。11月1日より看護部長として就任いたしました久々湊智予です。生まれも育ちも埼玉県です。

看護師経験は40年余りそのうち看護部長として15年です。都立の看護学校を卒業後、就職先は東京が主でした。この鹿児島県へは何回も学校訪問や卒業式、面接等と来ておりました。埼玉から鹿児島とだいぶ距離はありますが思い切っただけでこれも何かの縁と思い決断いたしました。川内市医師会立市民病院の果たす役割を念頭に置き、地域住民から信頼される看護部を目指し発展させていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

くくみなとともよ



看護部長 久々湊智予

新人看護師患者入院体験

恒例、新人看護師の「患者入院体験」研修を行いました。患者になりきって先輩看護師からアナムネーゼの聴取や入院オリエンテーション、看護ケアを実際に受け、患者の立場や看護倫理・看護観について様々なことを感じ、考える機会となったようです。

4階東病棟 西村

今回の患者体験で私は右半身の麻痺設定でした。利き手が使えず、食事を摂る事も歯を磨くこともとても苦労しました。また一人でトイレへ行けず車椅子介助で行かなくてはいけないこともあり、申し訳なくなかなか言えませんでした。今回患者体験を通して患者が日頃どんなに不便な思いをしているかとてもよく分かりました。その反面申し訳なさでナースコールを使用することをためらう気持ちも分かったので、今後はこちらから積極的に声かけを行っていきたいと思っております。



3階東病棟 宇都

回復リハビリ病棟に右膝損傷の為ニースプリントを装着した整形外科の患者設定でした。担当をしてくださった先輩看護師さんは、アナムネーゼをとる際、目線を合わせた姿勢で会話をしてくださいました。自分の行動を振り返ると立ったまま会話をすることがあるので、今後目線を合わせた会話や対応を実践していきたいと思っております。また移動の際は松葉杖が必要で、トイレに行くにも一苦労でした。私は一日だけの患者体験でしたが、患者さんは不自由な入院生活を送っていることを実感し、ほんの少しの配慮や声かけで患者は安心や安全を得られるのだと感じることができた体験でした。この気持ちを忘れず看護に活かしていきたいと思っております。



院内研修報告



看護部教育講演会・

臨床倫理「日常における倫理的視点とその対応」

講師：松元和代先生



霧島医療センターより、緩和ケア認定看護師松元和代先生をお招きして、「日常ケアにおける“倫理的”ジレンマ」をテーマに2時間程度の講演をしていただきました。新人看護師から師長まで幅広い看護師が約60名参加、院外からも3名の参加がありました。講演の中でお話を下さった、臨床倫理4分割法を用いたグループ学習は、「実際に使えそう」「終末期の患者の意向に寄り添えそう」「緩和ケアカンファに使いたい」など前向きな意見が聞かれ、2時間ではすべて理解出来ず、学び足りなかった等の意見もありました。今回、研修に参加された方は学び多い研修になったのではないかと思います。

3階東病棟 上城

ウォーキング研修・

e-ラーニング研修「リーダー論」を受講して

3階西病棟 福寄



今回の「リーダー論」の研修を受けるまでは、リーダーシップとは個人のもつ特性であり、向き・不向きがあると思っていました。しかし、今回の研修を通して、自己の行動を変えることで良いリーダーになれるという事や、リーダーの役割として方向づけ・動機づけ・学習の促進・チーム力の向上があることを学びました。リーダーに必要な能力として、業務遂行能力・人間関係能力・概念化能力があると学んだので、今後、まずはより一層人間関係能力を高めるために、意識してスタッフとのコミュニケーションを図るようにし、整形外科における特性や知識・技術の向上に努めるようにしていきたいです。

専門研修「脳卒中リハビリテーション看護」を受講して

講師：脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 福永 香

4階西病棟 飯田

市民病院に入職し6年勤務しています。4階西病棟は脳疾患を主にみている病棟であり、患者さんに関わってきました。今回の脳卒中リハビリテーション看護専門研修を受講し、看護技術、知識の曖昧だったところを改めて学ぶことができました。また看護についてだけではなく医師、薬剤師、栄養士、理学、作業、言語聴覚療法士の講義を聞くことができ、それぞれの視点からの観察や注意点などを知ることができ、脳神経疾患に対する視野を広げることができました。今回講義で学んだことを活かし、これまで以上に患者に合わせた看護ができるようにしていきたいと思います。





「看護補助者の活用推進のための看護管理者研修」を受講して

3階東病棟師長 久留須

看護職員が専門性の高い業務により集中できるよう、看護職員と看護補助者の業務分担に資する取り組みを行う必要性があります。その取り組みとして業務分担と責任の明確化・マニュアルの整備・モチベーション維持のための取組・教育などが掲げられています。これから超高齢化社会を迎えるにあたり、看護に係る人材の担保は必要であり、その為にも看護補助者の活用は当院でも急務の課題と考えられます。看護補助者が安心して働ける環境を作るためにもこれらの取り組みについて学び、実践できるようにしなければなりません。

今回の研修を機に「看護助手活用推進ワーキンググループ」をつくり活動を始めています。上記の取り組みについて実践し、より良い看護が提供出来るよう活動していきたいと思ひます。

「第30回日本手術看護学会年次大会」に参加して

手術室 大垣

2016年10月14日、15日の2日間、宮城県仙台市において第30回記念大会に参加させていただきました。今大会のテーマは「手術看護の躍進」と示され、さらなる躍進を遂げる為には手術看護の質を保証し、手術医療の安全安心を担保することが重要になります。

患者が安全に最良の手術治療を安心して受けられる場を提供する事は普遍的ですが、昨今、手術看護の複雑化や高度化などから、今日行われている取り組みが本当に患者の為のものであるか、患者、家族を置き去りにして、形骸化となり自分達医療従事者側の為のものになっていないかという事を強く考えさせられました。前に進む事は確かに大切ですが、一度立ち止まり今行われている一つ一つの手術看護を見直していく事が今重要ではないかと考えます。

今回の学びは手術室だけでなく組織での取り組みが不可欠であり、連携を図り取り組んでいきたいと思ひます。また、ローカルルールを絶対とせず、データを基に看護にあたる事を再確認し、知識・技術の更なるアップデートを図っていきたくです。

「第18回日本救急看護学会」に参加して



外来 有村

今回「日本救急看護学会」に参加する機会を得ました。ヘリコプターでの僻地重症患者搬送事例や、救命蘇生成功事例などをイメージしていましたが、内容は「高齢者医療」「チーム医療連携」「国際化」「地域医療システム構想」といった世相を反映するものが多いでした。参加者は高齢者に係るテーマに多く集まっており、関心の高さがうかがえました。

当院救急外来でも「老々介護」「独居老人」「家族関係不良」「経済的困窮」「認知症」「身元不明」等、病気だけではなく社会的な問題を抱えて来院される患者が毎日のようにあり、一つ一つが難題ですが、院内のみならず地域病院・施設・コミュニティとの連携を深めていかなければならないと考えました。

「第13回日本循環器看護学会学術集会」に参加して

4階東病棟 佐藤

10月22～23日に開催された、日本循環器看護学会学術集会に参加し、ポスター発表、聴講をしてきました。学会の傾向としては、慢性心不全に対する看護が注目されており、口演では多くの研究がなされていました。また、心臓リハビリに対し積極的に介入されている施設が多くあり、当院でも心臓リハビリを行っています。多くの看護者は身体的なリハビリを連想するのではないかと思います。しかし、実際には、栄養・薬剤・生活背景などを捉え心不全の悪化、また予防行動が出来るように支援することが重要であることを再認識しました。また、心不全で入院する患者は、就業している方もおり、不規則な生活の中で、内服・食事・運動を継続していかなければなりません。入退院を繰り返すことで、社会復帰が困難となる方へのセルフメディケーション能力を高める関わりが必要であることを改めて感じました。

自分の看護を振り返り、患者に心不全についてどれだけ伝えられているのか、内服管理のあり方など、改めて考える事ができました。今後在宅を意識した退院支援に日々努めていきたいと思ひます。



♥ e-ラーニング研修報告

「地域包括ケアを意識した患者支援とは」 を受講して

回復リハビリ病棟 富田

今回受講した事で現在行っている退院支援がなぜ必要か再確認することが出来ました。診療報酬の改定もさることながら、患者から生活者へ戻るといことを入院時から意識して関わる事の必要性、患者・家族の思いに寄り添う退院支援、早期から患者・家族が退院までの流れをイメージすることで目標を持って退院に向かうことが出来るということ、その為に他職種と早期に密に連携を図ることが重要であると学びました。



「患者・家族へのかかわり ～接遇・マナー～」を受講して

回復リハビリ病棟 田尻

毎日の職務の中で、気をつけていても時間が経過するごとに自分本位な態度や対応、言葉遣い、疎かになる身だしなみ…今回、講義を受講して改めて基本がどれだけ自分の印象を左右し、相手に与える印象に影響があるのかを学ぶ事が出来ました。そして何より医療現場での接遇・マナーで1番大切なことは、相手(患者・家族)の気持ちに寄り添い同じ目線や立場で考える姿勢が、安心・信頼に繋がり、より良い関係を構築できるのだと改めて感じました。今後は学んだ事を活かせるように心掛けて仕事をしていきたいと思えます。



マイブーム

地域包括ケア病棟 名越

長期マイブームで密かにと言うよりは、一部では船長と呼ばれるぐらいのONE PIECE好きです(笑) キャラクター、物語、全てがおもしろすぎて、ダメな所がない漫画です。フィギアやグッズ専用のお部屋を設けています。これはちびっこギャングにやられないための対策です。ほんとは、一番長くいるリビングに並べたいのですが…(泣)

OPE PIECEは漫画でもアニメでも何でもいいですが、アニメは尾田栄一郎氏原作のものをおすすめします。彼の原作でないものは、面白味が全く違うからです。途中から見ても面白いのでまだ見たことが無い人、ぜひ、いや必ず見てください！笑えます！怒れます！泣けます！とにかく楽しいです！



ミニナラティブ

4階東病棟 石原

肺がんで化学療法をされている患者とその家族のお話をします。その患者は化学療法目的で病棟に数回入院経験のある方でした。Aさんはもともと、てきぱきとした性格であり、私は検温や点滴をするだけでも緊張していたのを覚えています。月日がたち肺がんが進行するにつれて、脳転移が見つかり意思疎通を図ることも難しくなり、浮腫なども出現しボディイメージが大きく変化してきました。状態が変化するとともに旦那さんの面会時間も長くなってきました。旦那さんは口数も少なくいつも表情が硬い印象があり苦手だなと感じていましたが、ある日訪室するとA氏と笑顔で接している旦那さんの姿がありました。話を聞いてみると「今日は昼からずっと目を開けているから。話をしていました。」と笑顔で話してくださいました。旦那さんの笑顔を見て、Aさんの状態が変わっていくたびに「つらい思いをして色んなことを1人で抱え込んでいたのではないかと思います。当たり前ですが、患者1人1人に大切に思ってくれている家族がいることを思い知らされました。この体験を通して改めて、患者・家族の思いを聞き、尊重して看護を提供できるようにしていきたいです。



学研e-ラーニング研修 最新配信のお知らせ

①中堅コース

- 「救急に携わる看護師が知っておくべきこと」 11/1～11/30
- 「がん性疼痛—痛みの評価と薬の使い方」 12/1～12/31
- 「チームでかかわるリハビリテーション」 12/27～1/31

②管理職・チーム医療コース

- 「認知症患者の全人的ケアを目指して」 11/11～12/10
- 「病棟管理の可視化」 12/9～1/10



編集後記

今回、新人看護師が患者入院体験を通して、患者(病気)の立場になってわかったこと、患者のたくさんの思いを感じたと話してくれました。看護師の仕事は病気を看護するだけではなく、患者さんの思いを察し声をかけ、手をさしのべ心を支えているのだと思います。看護師の支えはこの詩の星のように見えない(看護の力)けれども患者の心に光を与えているのだと思います。

「星とタンポポ」(一部抜粋) 金子みすず

青いお空のそこ深く 海の小石のそのように
夜がくるまで沈んでいる 昼のお星は目に見えぬ

見えぬけれどもあるんだよ 見えぬものでもあるんだよ…

(小牧)